

競 技 注 意 事 項

1. 競技規則について

本大会は、2025 年 公益財団法人 日本陸上競技連盟競技規則及び大会規定により行う。
また、本大会は競歩・リレーを除くトラック種目をWR k 対象競技会とする。

(1) 競技用シューズについて

審判長が疑義を抱いた場合、競技開始前、競技中、または競技終了後に競技用靴の検査を行う場合がある。競技用靴規定に違反して競技を行った場合は失格とする。

種 目	ソールの最大厚さ	その他の要件 / 注意
トラック種目 ハードル種目 障害物競走	20mm	競技場内で行う競歩競技の靴底の最大の厚さは道路競技と同じとする。
フィールド種目	20mm	全跳躍種目で、競技用靴に関する規程 10.3 および 10.4 に記載のとおり、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない（前足の中心は、靴の内部の長さの 75%にある靴の中心点。踵の中心は、靴の長さの 12%にある靴の中心点）。
道路競技（競走・競歩）	40mm	

(TR5.2)

- (2) ビデオ装置、レコーダー、ラジオ、CDプレーヤー、トランシーバーや・携帯電話・スマートフォン、タブレット等の通信機器や録画再生機器等を競技エリア内で所持または使用することはでない。
(TR. 6.3.2)

2. 競技場への入場について

- (1) 正面スタンド1F および2F 入口を開放する。
- (2) 入場証は不要とするが、各校顧問が入場者の把握に努めることとする。
- (3) 観戦は学校関係者のみとし、入場時や観戦中に各校との関係について確認をすることがある。

3. 招集について

- (1) 招集所は、室内練習場に設ける。
- (2) 各種目の招集開始時刻・完了時刻は、下記のとおりとする。

招集時刻	トラック	棒高跳以外の跳躍	棒高跳	投てき
開始時刻	30 分前	50 分前	80 分前	60 分前
完了時刻	20 分前	40 分前	70 分前	50 分前

- (3) 携帯電話・スマートフォン・タブレット等の電子通信機器は、招集所内に持ち込まないこと。

(4) 招集の手順

- ①競技者は、招集開始時刻までに招集所で待機し、競技者係の点呼を受ける。その際、アスリートビブス、競技で使用するシューズの確認を受ける。
- ②トラック種目は、競技者係の点呼を受け、同時に腰ナンバーを受け取り、パンツの右側のやや後方につけること。男子5000m・女子3000m・競歩競技及び混成競技の最終種目は、別ビブスも受け取ること。
- ③代理人による招集の点呼は認めない。ただし、同日に2種目以上にわたって同時刻に出場する競技者は、第1種目の招集開始時刻までに、本人がプログラム巻末にある「多種目同時出場届」を競技者係（招集所）へ提出し、併せて招集を受けることができない種目の点呼（アスリートビブス、競技で使用

するシューズの確認)を受けておくこと。その場合に限り、第2種目の招集を受ける必要はない。また、ラウンド進出により同じ時間帯に競技が行われる可能性が発生した場合には、すみやかに多種目同時出場届を競技者係(招集所)へ提出すること。

④招集完了時刻に遅れた競技者は、出場する意思がないものとみなし処理する。

(5) リレー種目について

①「オーダー用紙」(プログラム巻末にある)に、各ラウンド(予選・準決勝・決勝)ともに、その種目の第1組目の招集完了時刻の1時間前までに競技者係(招集所)へ提出すること。必要事項を記入のうえ提出すること。「オーダー用紙」の提出がない場合は、出場する意思がないものとみなし処理する。

なお、男子4×100mの準決勝のオーダー用紙の提出時刻については、16時50分までとする。

②出場メンバー全員が点呼を受けること。ただし、他種目に出場している場合は、上記(4)③に準ずる。

③4×100mでは第4走者、4×400mでは第2・第3・第4走者は腰ナンバーカードを受け取り、パンツの右側のやや後方につけること。

(6) 混成競技について

①1日目、2日目ともに最初の種目は、招集所にて指定された時刻におこなう。それ以降の種目は、混成競技係の指示された時間に現地で点呼を受ける。

②他の種目と重なっている場合は、あらかじめ混成競技係にその旨を告げ、かつ競技者係(招集所)に「多種目同時出場届」を提出しておくこと。また、このとき競技者はフィールド種目においては、いずれの種目を優先させるかを定めることができるが、トラック種目と重なる場合はトラック種目が優先となる。

(7) 招集所から競技場所への移動は、競技者係の誘導に従うこと。

(8) やむなく欠場する場合は、招集開始時刻までにプログラム巻末にある「欠場届」を競技者係(招集所)へ提出すること。

4. 競技進行について

(1) 番組編成およびラウンドの通過について

①トラック競技の予選のレーン順、およびフィールド競技の試技順はすべてプログラム記載の順番とする。なお、準決勝以降の組み合わせはすべて番組編成員が行い、場内アナウンスおよび場内スクリーンに表示するとともに、大阪高体連WEBページに掲載する。

②トラック競技における次のラウンドへの進出者について

(ア) (+ α)を決めるとき、その最下位で同タイム(1/100秒単位)が出た場合、1/1000秒単位で優劣の判定をする。

・レーンに余裕がある場合・・・同タイム(1/1000秒単位)の競技者の進出を認める。

・レーンに余裕がない場合・・・本人または代理人により抽選する。

(イ) 同着により着取りによる進出者が増えた場合は、(+ α)での進出者数を減らす。

(ウ) 800mとレーンを使用しない種目は、同タイム(1/1000秒単位)の競技者は全員次のラウンドに進める。

(2) 競技について

①競技結果は、場内アナウンスおよび場内スクリーンで発表するとともに、大阪高体連WEBページに掲載する。なお、ラウンド進出に関わるものを除き紙による掲示は行わない。競技結果が場内スクリーンに確定表示され、アナウンスされた時点を正式発表とする。

②当該種目出場者以外は競技エリアに立ち入ることはできない。

③スパイクのピンの本数は11本以内とし、9mm以下のものを使用すること。ただし、走高跳・やり投については12mm以下とする。また、先端近くで少なくとも長さの半分は4mm四方の定規に適合するように作られていなければならない。スパイクのピンのチェックは招集時に行う。

- ④アスリートビブスは胸部と背部につけること。ただし、跳躍競技に出場する競技者は、胸部または背部だけでよい。
- ⑤男子 5000m・5000mW・女子 3000m・5000mW は別ビブスを使用する。
- ⑥混成競技の最終種目では、それまでの成績による順位を表す別ビブスを胸につけて競技を行う。背は競技者個人のアスリートビブスで、腰はレーンナンバーとする。
- ⑦トラック競技では、腰ナンバーカードをパンツの右側やや後方につけること。4×100m では第 4 走者が腰ナンバーカードをつける。4×400m では第 2・第 3・第 4 走者が腰ナンバーカードをつけること。なお、腰ナンバーカードは主催者が用意する。
- ⑧トラック競技の短距離種目では、競技者の安全確保のためフィニッシュ後も自分のレーン（曲走路）を走ること。
- ⑨男子 5000m・女子 3000m、男子 5000mW は危険防止のためグループスタートとする。
- ⑩ラスト 1 周で、男子 5000m では 18 分、女子 3000m では 13 分、男子 3000mSC では 12 分、男子 5000mW では 28 分、女子 5000mW は 31 分をこえる選手は審判長が競技を打ち切る。
- ⑪競技エリア内にビデオ装置、携帯電話、スマートフォン、タブレット等の電子通信機器等を持ち込むことはできない。また、競技エリア内で助力を与えたり受けたりしている競技者は失格の対象となる。フィールド競技に出場している競技者が、それ以前の試技の映像をコーチ席以外の場所からの提示により見ることは認めない。メインスタンド前ピットで行われる走幅跳・三段跳では、録画再生機器等をメインスタンドの指定されたエリアから大会本部が用意した吊り下げ紐付き袋を使用した場合のみ、それ以外の場所での跳躍競技および投擲種目では、コーチ席前の指定されたエリアの中で、録画映像を提供する者から受け渡し可能な範囲であれば、競技者は撮影した人とコミュニケーションを取りながら録画再生機器を手にしてもよい。ただし、通信通話機能の使用は競技規則により禁止である。
- ⑫トラック競技における連呼応援
アナウンサーの通告や、リレーの受け渡しの声が聞こえない場合があるので、応援のマナーとして自粛すること。
- ⑬フィールド競技における声掛け
試技開始時の競技者の発声に対する集団の応答応援は、トラック競技を始め、競技運営上影響する場面が多いので、これも自粛すること。
なお、手拍子については決勝のトップ 8 以降のみとする（高さ種目においては概ね 8 名、混成競技においては競技に支障のない範囲とする）。
- ⑭競技エリア内では安全確保・危険防止のため、個人所有の椅子や日傘、大型のクーラーボックス等の持ち込み・使用を禁止する。

(3) 跳躍競技の予選通過記録は次の通りとする。

種目	走高跳	走幅跳	三段跳	三段跳の踏切板の砂場からの距離
男子	1m83	6m75	13m60	男子・・・12m
女子	1m53	5m15		女子・・・10m

また、男女走幅跳予選、男子三段跳予選および女子三段跳決勝では下記の記録以下は計測しない。ただし、各競技者の有効試技の 1 回目は計測する。

種目	走幅跳予選	三段跳予選	三段跳決勝
男子	6m00	12m50	——
女子	4m60	——	10m00

(4) 走高跳、棒高跳のバーのあげ方は下記のとおりとする。

種目		練習	競技
男子走高跳	予選	1m74 1m83	1m77 80 83
	決勝	1m77 1m86	1m80 83 86 以後 3cm ずつ上げる
女子走高跳	予選	1m44 1m53	1m47 50 53
	決勝	1m47 1m56	1m50 53 56 以後 3cm ずつ上げる
男子棒高跳	決勝	練習は下記の通り	3m22 42 62 82 92 4m02 以後 10cm ずつ上げる
女子棒高跳	決勝	練習は下記の通り	2m22 42 62 82 92 3m02 以後 10cm ずつ上げる

決勝で最後の一人となり、優勝者が決まるまでは、上記のバーの上げ方とする。

同記録による 1 位決定と近畿大会出場権を決定するバーの上げ下げは、走高跳 2cm、棒高跳 5cm とする。

棒高跳の練習の高さについては、各選手任意の高さを設定する。

(5) 混成競技の走高跳のバーのあげ方は下記のとおりとする。

	組	練習の高さ	競技
男子	1 組	1m25 1m50	1m30 35 40 以後 1m75 までは 5cm それ以後は 3cm ずつ
	2 組	1m60 1m75	1m65 70 75 以後 3cm ずつ上げる
女子	1 組	1m10 1m35	1m15 20 25 以後 1m45 までは 5cm それ以後は 3cm ずつ
	2 組	1m35 1m55	1m40 45 48 以後 3cm ずつ上げる

混成競技の走高跳開始の高さは、開始の高さの違う 2 ピットに分けて行う。競技者は第 1 種目の招集所での点呼の際、希望のピットを選択し、開始の高さを申請すること。なお、1 組・2 組の人数を調整するため、混成審判長の判断により 2 組の開始の高さを変更する場合がある。

(6) 投てき種目について

下記の記録以下の者はベスト記録のみ計測する。

種目	砲丸投	円盤投	ハンマー投	やり投
男子	10m00	30m00	30m00	45m00
女子	9m00	25m00	25m00	25m00

(7) 予選が実施されるフィールド競技において、予選通過標準記録を超えた競技者が 12 名に満たなかった場合は、上位 12 名まで決勝に進出させる。なお、12 番目に同じ記録の競技者がいた場合は、下記の方法で決定する。その結果、同成績の競技者は決勝に進める。

① 走高跳の場合

(ア) 同記録になった高さで、試技数の最も少なかった競技者。それでも決まらない時は、下記(イ)を適用する。

(イ) 同記録を生じた高さまでのすべての試技数のうち、無効試技数が最も少なかった競技者

(ウ) 上記(イ)でも決まらない時は、複数名が決勝に進出できる。

② その他フィールド競技の場合 同記録となった競技者の 2 番目の記録で順位を決める。

それでも決められない時は 3 番目の記録で決める。3 番目の記録でも決まらない時は、複数名が決勝に進出できる。

(8) フィールド競技の試技時間は次のとおりである。

【単独種目】

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4 人以上※	1 分	1 分	1 分
2~3 人	1 分 30 秒	2 分	1 分
1 人	3 分	5 分	—
連続試技※※	2 分	3 分	2 分

【混成競技】

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上※	1分	1分	1分
2～3人	1分30秒	2分	1分
1人	2分	3分	—
連続試技※※	2分	3分	2分

※ 4人以上または各競技者の最初の試技

※※単独種目・混成競技ともに、残っている競技者数が2名以上の時に適用し、走高跳・棒高跳では高さが変わった場合にも適用する。

5. 競技用具について

- (1) 棒高跳用ポール・やり以外の競技用具は、競技場備え付けのものを使用する。
- (2) やりは競技場備え付けのものを準備するが、検査を受けて自己の物を使用してもよい。
検査は、競技開始時刻の1時間30分前～1時間前までに受けるものとし、正面スタンドから入場のうへ、器具庫前へ持参すること。なお、混成競技のやりの検査は競技開始予定時刻の1時間前までとする。

6. 抗議について

抗議は日本陸上競技連盟競技規則に従い、当該校顧問から、総務員に口頭で申告し、総務員が審判長に取りつぐ。

日本陸上競技連盟競技規則 (TR. 8. 2)

競技(ラウンド)の結果または競技実施に関する抗議は、その競技(ラウンド)の結果の正式発表後30分以内に行わなければならない。

〔国内〕同一日に次のラウンドが行われる競技では、その結果が正式に発表されてから15分以内に申し出なければ、なんら問題はなかったものとみなされる。

7. 表彰について

- (1) 各種目で8位までの入賞者(入賞チーム)に賞状を授与する。
成績発表後、第6位まで種目表彰を行うので、成績発表後直ちに受賞者席(正面エントランスホール)に集合のこと(ただし、4×100mの表彰はこの限りではない)。他の種目に出場している場合は、必ず代理人が表彰係まで連絡すること。なお、7位・8位にも賞状を渡すので、成績発表後できるだけ速やかに正面エントランスまで賞状を取りに来ること。
- (2) 総合表彰式では以下の表彰を行うので当該校(当該者)は必ず参加すること。
 - ① 男女別総合と男女別トラック・フィールドの部で6位までに入賞した学校
 - ② 男女の優秀競技者
 - ③ 男女各総合優勝校の監督(顧問)
- (3) 学校対抗得点は1位8点、2位7点・・・8位1点とする。

8. 近畿インターハイについて

- (1) 近畿インターハイの出場権を得た選手(チーム)は各種目6位までに入賞した選手(チーム)とする。ただし、男女走高跳および男子棒高跳は6位までに入賞した6名とする。男子5000mW・女子5000mWは5位までに入賞した選手、八種競技・女子三段跳・女子ハンマー投・七種競技は4位までに入賞した選手とする。女子棒高跳は4位までに入賞した4名とする。高さ競技で同順位が多数の場合は近畿大会出場権決定戦を行う。
- (2) 近畿インターハイの出場権を得た選手は必ず近畿大会受付にて申し込み手続きを行うこと。
- (3) リレー種目の出場権を得たチームは、近畿大会受付でリレーオーダー用紙を受け取り、オーダーを記入後、顧問のサインを得て申し込み手続きを行うこと。

9. 式典について

- (1) 開始式は第1日目の9時05分より正面スタンド前で行う。
- (2) 総合表彰式は第3日目の競技終了後に行う。総合の部該当校の代表者および近畿インターハイの出場資格を獲得した選手は原則参加すること。参加できない場合は近畿受付まで申し出ること。
- (3) 総合表彰式終了後近畿インターハイ出場についての連絡を行う。

10. 競技場の使用について

- (1) ①応援はスタンドで行い、競技場トラック周辺に降りて行わないこと。
②スタンド最前列及び中央通路での立ったままの応援・観戦は禁止する。
③メインスタンド記者席での座っての観戦はかまわないが、場所取りをしての占有は禁止する。
④テント設置禁止エリアでの日傘を使用しての観戦は危険防止のため禁止する。
- (2) 以下の箇所にはテントを設置しないこと。
①南北の芝スタンド（土盛スタンド）の中段より下
②メインスタンド中段通路より下側および記者席からフィニッシュ側2ブロックのエリア
③ビデオ監察の撮影の支障となる場所およびコーン・トラバーで規制された場所取り禁止区域
なお、テントを設置する際に、ロープ等が通路にかからないようにすること。
- (3) 各校部旗・横断幕は、バックスタンド・土盛スタンドを使用すること。
- (4) 更衣室の使用は更衣のみとし、使用後はすみやかに退室すること。また、一切の私物等を置いてはならない。
- (5) スタンド等使用した場所は、各校で責任を持って清掃し、ゴミ等は必ず持ち帰ること。
- (6) 通行禁止、使用禁止等の指示については厳守すること。
- (7) トラック、フィールドおよび練習走路以外でのスパイクの着用は禁止する。

11. その他

- (1) 顧問の受付がない学校の競技者の出場は認めない。
- (2) 競技中に起こった怪我等は、本部の医務室で応急処置のみを行う。
- (3) 盗難の発生や忘れ物に注意し、荷物等の管理は各校で十分注意すること。
- (4) 外国人留学生が大会記録を更新した場合の取り扱いは、大会記録（国際）として認定する。
- (5) Jアラート警報が発令された場合は、競技を中断する場合がある

個人情報の取り扱いについて

プログラム記載の個人情報（名前、学校名など）および大会結果は、新聞および大阪陸上競技協会・大阪高体連陸上競技専門部 WEB サイト等に記載されますが、本大会関係以外には一切使用しません。また、本大会が認めた報道機関が撮影した映像が中継・録画放送されることがあります。

＝ 周 知 板 ＝

第78回全国高等学校陸上競技対校選手権大会近畿地区予選会について
期 日：6月12日（木）～15日（日）
場 所：京都府京都市 たけびしスタジアム
総監督：船津哲史（大塚）

練習について

- (1) 練習はバックスタンド後方(東側)の練習走路を使用すること。走る方向は北から南の一方通行とし、逆走は禁止する。学校・個人のハードルやラダーなどは持ち込まないこと。また、ゴムチューブなどを使ったスピード練習は禁止する。危険防止のため日傘の使用は禁止とする。
- (2) 公園内でのリレー練習は一切認めない。また公園内でのスピードを出しての練習も禁止。
- (3) 競技場および公園内はメディシンボールなど、物を投げる練習は禁止する。
- (4) 走高跳、走幅跳、三段跳は準備が整った後、競技役員の指示で練習してもよい。
- (5) 競技開始前のトラックでの練習については、次のとおりとする。

競技開始前の競技場での練習について

競技会開始前の競技場(トラック)での練習は、周囲の動きに十分注意して行うこと。ただし、練習可能時間内であっても競技会準備を優先とし、競技役員の指示に従うこと。なお、競技場での練習は、3日間とも7時45分から9時00分までとする。なお、安全のため競技エリアでの日傘の使用を禁止する。

※いずれもジョグはレーン外で ・ 1. 2レーンは長距離ペース走用

【1日目】

〔ホームストレート〕

3～5レーン=直線からのスプリント練習

6～7レーン=100mH

8～9レーン=110mH

〔バックストレート〕

3～9レーン=リレー練習

※リレーバトン練習は1→2走・3→4走は第2コーナー、2→3走は第3コーナーで行うこと。各校で使用したリレーのマーク(テープ)は必ず取り除くこと。

【2日目】

〔ホームストレート〕

3～7レーン=直線からのスプリント練習

8レーン=100mH

9レーン=110mH

〔バックストレート〕

3～4レーン=リレー練習

5レーンは使用しない(接触等の防止のため)

6～7レーン=女400mH

8～9レーン=男400mH

【3日目】

〔ホームストレート〕〔バックストレート〕

3～6レーン=コーナーからのスプリント練習

7～9レーン=直線からのスプリント練習